令和４年度　奈良県立大和中央高等学校　通信制課程　学校評価総括表

年度	令和４年度（中期計画１年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供　　・生徒の「学び直し」や不登校生徒等に対する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。　(2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。　(4) 生徒の安全を守る取組を充実させる。 (5) 「命」を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。　(6) 働き方改革の推進を行う。

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下のような生徒を募集し、入学者選抜を経て受け入れます。
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校通信制課程では、「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 １　自学自習がスムーズに行えるように、スクーリング（面接指導）で、学習の方法を丁寧に指導します。 ２　学校設定科目「数学入門」、「英語入門」では、基礎学力の定着を図ります。 ３　総合的な探究の時間「つどい」では、学習意欲、自尊感情、勤労観、自己表現力等の向上を図ります。 ４　日曜コースと平日コースを設け、自分のライフスタイルに応じた学びを設定できます。また、３年間での卒業も可能です。 ５　個別の「自学自習」を支援するために、毎週1回、生徒相談日を設けています。 ６　自学自習に適したレポートを作成し、丁寧な添削指導を行います。 ７　「生徒交流会」や「夏の風物詩」などの学校行事を、特別活動として認定しています。 ８　郷土を愛する心を育むことを目的とした、「生活文化の伝承」や「奈良ＴＩＭＥ」では、探究心を高める共に地域と密接に連携した教育活動を行います。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下の資質・能力を身に付け、７４単位以上の単位数を修得した生徒に卒業を認定します。 １　社会的自立に必要となる生きる力、基礎的な学力、勤労観を育成します。　２　自尊感情を高め、互いの人権を尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ３　意欲的に学びに向かう力と、粘り強く目標に向かって努力する態度を育成します。　４　自ら考え判断し、計画的に行動できる力や自己管理力を育成します。

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和４年度末の目標値等（Ｃ）	令和４年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	学校関係者評価（Ｆ）	改善方策（案）
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生徒と教員の望ましい人間関係の構築	・生徒または保護者との面談、教育相談を充実させ、生徒の状況把握に努める。	毎週１回の教育相談日の有効な活用	教育相談日についてはスクーリング予定表に案内を掲載し、生徒及び保護者に呼びかけた。実際はスクーリングでの登校時の面談が多いのが現状である。	登校、面談の機会が少ない本校の実情を踏まえ、学習が進んでいない生徒及び保護者に対し、教育相談日に限らず、随時面談等を行ってきた。	・コロナ禍で、家庭でも食卓を囲んだコミュニケーションが難しい状況が続いている。学校においても生徒間のコミュニケーションが難しいと思う。	教育相談日の利用について、年間行事計画、受講ガイドブック、ホームページ等で生徒及び保護者に呼びかける。また、学習が進んでいない生徒を対象に、学期末に面談、教育相談等を実施する。
	食育の推進	・「すこやか通信」を配布し、生徒の意識向上を図る。	「すこやか通信」を年２回発行	「すこやか通信」は元養護教諭であるスクールヘルスリーダーに作成いただき、９月と11月に配布した。	「すこやか通信」の配布及び教室等への掲示にとどまった。		食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、配布物等の工夫、関連する教科での指導を行う。
	不登校等の様々な問題を抱える生徒への支援	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	職員研修を年に１回以上実施	６月に職員研修を実施した。また、毎月の職員会議でも生徒に関する情報共有を行ってきた。	生徒の情報については常に教員間で共有するよう心がけてきた。この体制は維持していきたい。		ＳＣ、ＳＳＷの協力を得ながら、定期的な生徒等に関する情報共有を行い、生徒及び保護者の支援を続ける。
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたスクーリング	・週１回のスクーリングの指導内容を充実させる。	規定回数出席する生徒数の増加	規定回数出席する生徒数 232名（昨年度223名）スクーリングの出席、レポートの提出の状況について毎月生徒及び保護者に通知してきた。	郵送の他、電話連絡も行っているが、連絡がつかない生徒もいる。学習が滞っている生徒の指導が課題となっている。	・保護者に学校の様子を参観いただく、あるいは保護者の意見をいただく工夫について、検討をお願いしたい。	学習状況の通知の他、学習が滞っている生徒及び保護者に対し、積極的に面談をに行う。また、生徒が主体的に参加できるスクーリングの方法を検討する。
	学習意欲の向上	・自学自習の方法を理解させ、生徒の気持ちを学習に向けさせるように努める。 ・各科目の単位修得率を前年度より高めることができるよう、生徒へ丁寧に説明・指導する。 ・生徒のレポート作成の支援のあり方について研究する。	意欲的に自宅で自学自習に取り組むことができるレポート作成の研究、クラスルーム等を活用した生徒との情報共有の研究	各クラス及び各科目でクラスルームを作成し、生徒への連絡、質問の受付等を行った。 新課程科目のレポート及び試験については、観点別に問題等を作成し、評価を行った。	観点別評価について、今年度の課題の集約を進め、生徒の学習意欲を高めるレポートづくりに生かす必要がある。クラスルームの利用については、ホームルームでの連絡、各科目での質問等、機会は増えつつあるが、確認等を確実に行っていない生徒への指導が課題となっている。		来年度開講する新課程科目のレポート作成について、近畿の各通信制高校の取組を参考にしながら進める。また、クラスルームの活用率向上に向けて、来年度は、年度初めのホームルームやスクーリングで、クラスルームへの確実な参加、活用方法について、丁寧に指導する。
	ＩＣＴ教育の推進	・ＩＣＴを活用した指導方法の研究に努める。	研修会の実施、クラスルーム等の活用の研究	クラスルームを活用し、教員間の連絡を行った。電子黒板の使用について、スクーリングでの活用事例の共有等、情報交換を行った。	電子黒板の導入台数が２台にとどまり、特定のスクーリングでしか利用できない状況である。		電子黒板の全普通教室導入に向け、電子黒板、Chromebookの活用について、校内での研修、情報交換の機会を増やしたい。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	社会的自立に向けて、職業観の育成	・定時制や高進協、労働局との連絡を密にし、進路に関する情報を入手し、生徒に情報提供を行う。	就職希望生徒の80%以上に対する職場見学等を実施	学校斡旋による就職希望生徒の職場見学は100%実施した。	生徒の実態を踏まえ、生徒が就職希望を申し出てきた場合には随時対応できている。	・個々の生徒の希望や状況に応じ、進路指導を行っていただいている。	ミスマッチを減らし、個々のニーズに対応できるよう、引き続き、生徒の進路希望を丁寧に聞きながら、随時指導を進める。
	産業界との連携の推進	・外部講師を招き、進路講演会等を実施する。	進路講演会等を年に複数回実施	進路講演会、分野別説明会をそれぞれ１回ずつ実施した。	クラスを問わず、卒業対象となる生徒がいることから全生徒が参加できる方法で実施した。		生徒の進路実現に参考となる効果的な情報提供の手法について研究を進める。
	キャリア教育の推進	・総合学習「つどい②」において、自己を見つめ、自立した社会人になるための生き方や将来について考えさせる。	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上	「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答　94.0%	卒業対象生徒の進路実現に向けた取組が課題となっている。生徒がより能動的に学習に取り組む工夫が必要である。		授業アンケートを分析し、生徒が進路実現に向けて意欲を高めることができるようなスクーリング、レポートについて検討を行う。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミニュティ・スクールの運営	・委員等との連携を密にしながら諸活動や行事への協力体制をとれるようにする。	学校運営協議会を年に複数回開催	学校運営協議会を７月及び12月に実施した。	学校運営協議会委員の方に、学校設定科目の外部講師、「順慶まつり」の連携等で協力いただけた。	・順慶まつり等への協力には感謝している。来年度はコロナ禍以前の形に近づけて実施したいと考えている。良い関係が築けていると思うので、引き続き協力をお願いしたい。 ・順慶まつりの取組は、生徒が地域を知り、これから地域にどのように貢献するか、という視点で非常に意味があると思う。	学校設定科目で製作した組紐等を生徒交流会で展示し、地域の方に見学いただいた。今後も「順慶まつり」を中心に、地域との協働を進めたい。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	・「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」の指導内容の充実を図る。	「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上	「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答　奈良ＴＩＭＥ 96.2%、生活文化の伝承 95.4%	いずれの科目も地域の伝統、文化に関わる学習である。特に「生活文化の伝承」は「順慶まつり」につながる内容を含むため、「順慶まつり」の開催方法に応じて内容を工夫した。		「生活文化の伝承」については、「順慶まつり」の本格実施に向け、関係者の協力を得ながら、より内容を充実させる。「奈良ＴＩＭＥ」については、フィールドワークの実施等も検討する。
	地域に根ざした生徒会活動の充実	・地域の清掃活動や「順慶まつり」等の活動の活性化を図り、地域の方々との交流を深める。	地域での清掃活動や「順慶まつり」等の活動へ年に３回参加	通学路の清掃活動を２回実施するとともに、「順慶まつり」に参加した。	「順慶まつり」については、コロナ禍であるため、スタンプラリー形式で実施された。生徒が参加するだけでなく、運営にも協力できた。		「順慶まつり」関係者との連携をより密にし、各教科等での取組も充実させながら、生徒が地域に貢献できる場となるよう取組を進める。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習の充実	・人権ＨＲ、講演会、映画会の三本柱で人権学習会を実施する。 ・案内文書にＱＲコードを入れ、参加申込をしやすいよう工夫する。 ・生徒の実態に即した内容の学習会を実施するため、研修を行う。	人権講演会等を複数回実施	人権講演会及び人権学習会（映画鑑賞）を実施した。参加申込はGoogleのFormsを活用した。人権HRは本校の生徒の実態を考慮し「レジリエンス」をテーマに選んだ。	以前、本校のＳＳＷをしていただいていた方を人権講演会の講師にお招きするなど、生徒の実態にあわせた講演会、学習会の実施に努めた。	・不登校等、様々な状況の生徒を指導いただいているが、生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいると思う。	人権学習の機会が限られている本校の実態を踏まえ、多様な生徒に即した内容で、より効果的に実施できるよう、教材の発掘、開発に努めたい。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	・面談やアンケート等を通して、生徒の実態把握に努める。	いじめアンケートを複数回実施	アンケートを３回実施した。	アンケートの結果、いじめを把握していない。登校の機会が少ないことから、生徒の実態把握の貴重な機会ととらえている。		生徒の実態把握の難しさがあるが、日々のスクーリングへの出席の様子等をしっかり観察するとともに、教員間での情報共有を行っていく。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の有効活用	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	学期ごとに対象となる生徒の状況を全教員で確認	毎月の職員会議で生徒の情報を共有するとともに、配慮を要する生徒についてはＳＣ、ＳＳＷと連携して指導を進めてきた。	生徒・保護者に対し、必要となる支援も多様で、ＳＣ、ＳＳＷの存在は教員にとって非常に大きい。		ＳＣ、ＳＳＷ及び特別支援教育支援員の協力を得ながら、必要となる支援の内容を明確にし、効果的な指導方法を検討する。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

※少ない教員で多くの生徒を指導している本校通信制の体制を維持するためには、教員等のチーム力と地域をはじめとする学校関係者の協力が重要となる。今後も、「連携」、「協働」を進め、多様な生徒に対し、個に応じた指導を行っていきたい。
※「本校に入学してよかった」と感じている生徒の割合 95.9%(生徒アンケート、令和５年２月実施)